Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
Reference Code: A'.7.1.0.5-2-2

電信写

昭和二八 七七一一 平 バンコック 七月二九日一六三〇発 情文一
本省 三〇日〇六五六着

岡崎大臣 太田大使

第二二八号（重複？）（LT）

（朝鮮休戦の成立に関しタイ政府の態度及び新聞論調に関する件）

一、朝鮮休戦の成立に対し、当地一般は比較的冷静であるが、政府当局においては、先般のホーチミン軍のラオス侵犯事件もあり休戦により却つて将来共産軍侵攻の可能性増大したと危惧を強めたものの如く、昨二十八日最高国防会議を開いて、今後の状勢判断を行つて、国境防衛力の増強方針を決定した模様であるが、経済方面では輸入に関する限りは前途楽観視されているものの、ゴム等の土産品の輸出においては極めて悲観的であり、経済大臣が昨二十八日記者会見において、休戦成立と共にタイの戦力物資対中共禁輸政策は当然再検討さるべしと言明して、

外務省

電信写

ゴム、木材等の対中共輸出再開の可能性を示唆したことは、タイ政府の実行している反共政策にも鑑み一般の注目を集めている。

二、主要新聞の論調次の通り。

タイ字新聞は殆ど論調のみるべきものがないが、民主日報は国府系であるだけに、休戦の成立により大陸反攻は困難となつたと悲観的論説を掲げ、中立系の中元報は休戦後に開かるべき政治会議につき、南北両鮮の統一は極めて困難であり、本問題を繞つて戦闘再開に到る危険すらあるとみている。亦英字紙リバテーは李大統領が近代戦の実相を知つている限り、休戦を破棄する様な無茶な行為には出ないだろうと楽観記事を掲げ、ポストは今次休戦は国連各国による共同防衛の勝利であり、今後ともその努力は継続すべきであると論じている。

（了）

配布先　大臣、次官、官房長、局長、次長、総、ア一、二、三、四、欧米一、三、四、五、経一、四、五、条一、国協一、情文一、二、審

外務省